

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970300129		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム あい		
所在地	高知県安芸市川北甲3731番地		
自己評価作成日	令和元年6月1日	評価結果 市町村受理日	令和元年9月17日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は山や農地に囲まれた静かな高台にあり、利用者が安全で快適な田舎暮らしができる環境が整っている。母体法人の運営する養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスセンターを併設し、施設全体が福祉ゾーンを構築しており、災害時における地域の福祉避難所として指定を受けている。

利用者は、散歩やドライブ、地域の行事を通じて地域住民と顔馴染みの関係を築いたり、保育園児や小中学生とのふれ合いや、併設の高齢者施設の利用者とは交流するほか、自分でできることは生きがいとして役割を担い、花や野菜を栽培したり、音楽療法やボランティアとの交流を楽しみながら、ゆったりと過ごしている。

退所後も必要に応じて母体法人が運営している介護保険施設等の利用ができるようバックアップ体制も整っており、利用者に安心な暮らしを提供できるようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;jkyosvoCd=3970300129-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;jkyosvoCd=3970300129-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和元年7月22日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は眼下に田畑が見渡せる静かな高台にあり、養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスセンターを併設する母体法人の福祉ゾーンの一画に位置し、広い敷地には大きな楠木や藤棚等の木々があって、利用者は日々季節を感じながら穏やかに暮らしている。

事業所開設時からの理念を大切に引き継ぎ、利用者の地元愛や長く生活してきた地域の生活感を大切にして、利用者一人ひとりがどんな暮らしを望んでいるのかを知り、その実現に向けて家族と一緒に考え、支援していくことを目指している。

防災面においては、福祉ゾーン全体が市の一時避難所、福祉避難所になっているため、一斉防災訓練は地区防災組織や地区住民と協力して実施しており、日頃からの協力体制ができています。

看取りについては母体法人からの医療、看護のバックアップ体制が整い、本人、家族の希望に沿って行われ、利用者や家族の安心につながっている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: あい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時や、異動してきた職員にも理念を説明し、理解を得たうえで、理念を書面にして渡している。職員会では理念について話し合い、振り返りを行って、ケアに活かせるよう取り組みを続けている。	利用者の地元愛や、長く生活してきた地元の生活感を大切にして、安心して居心地の良い生活ができるよう支援するという理念を機会あるごとに職員間で話し合い、具体のケアに結び付けるよう取り組んでいる。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前からあった母体法人福祉ゾーンに併設してできた事業所ということもあり、地域には定着している。地域行事や清掃活動に参加し、ボランティアの受け入れや防災訓練などを通じて、積極的に交流が図られている。	運営推進会議等で地域の情報を得る一方、母体法人福祉ゾーン施設合同の秋祭りには地域にチラシを配布し、参加を呼び掛けている。災害時の一時避難所になっているため、市の一斉防災訓練は地域の自主防災組織と協力して実施している。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は、面会時に来客や家族に認知症ケアでの見本となるような言葉掛けや対応を行うことで、身近な所から認知症への理解を浸透させられるように努めている。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通じて利用者や家族に要望や苦情がないか問いかけ、話し合っている。また、地域の部落長、民生委員、地域の住民代表、家族代表を参加者として、防災、福祉避難所についての地域との連携や、行事参加について話し合っている。	行政、地域の代表者、民生委員の参加を得て、事業所の取り組み等について報告し、意見を聞いてサービスの向上につなげている。家族の参加が得られていないほか、防災に力を入れているにもかかわらず、防災関係の地域住民の参加がない。	家族が参加しやすい時間等を検討し、家族に参加を呼びかけるとともに、災害時の避難所になっていることから、自主防災組織や消防団等にも参加を依頼し、日頃から地域の協力体制を築くことを期待する。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が行っている介護保険サービス事業所の交流会や運営推進会を通して密な連携が図れるようになり、小さなことでも気軽に相談できる関係が築けており、すぐに電話で確認を取るなどして、サービスの向上につなげている。	運営推進会議や市主催の研修会等を通して、地域包括支援センターとは日常的に情報交換できる関係ができている。入退所についても随時連絡を取り、協力関係が築かれている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体法人全体で取り組んでおり、研修を実施したり、職員会等で話し合っって身体拘束をしない、利用者の尊厳を支えるケアの提供に取り組んでいる。日中は玄関の施錠はせず、利用者の自由な暮らしができるよう、見守りを中心に支援している。	職員は内外の研修会に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。口調や対応するときの職員の表情等にも注意し、利用者には不快な思いをさせないよう取り組んでいる。夜間の安全確保のためコールマット使用の利用者がいるが、家族にリスクの説明をした上で了解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体法人全体で取り組んでおり、研修を実施したり、職員会等で事例を話し合ったりして、虐待のない、利用者の尊厳を支えるケアが提供できるように取り組んでいる。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体法人全体で取り組んでおり、家族にも制度説明をして、情報提供をしている。また、利用者に対象者がいないか検討したり、活用ができるよう、職員の知識向上に努めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には十分な時間を取り、契約書に沿った説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年4回家族会を開催し、苦情や要望がないか確認し、また、家族だけで話し合う場も設けている。利用者、家族から相談があった際には、できるだけより良い改善が行えるよう適宜対応している。	年4回の家族会では、家族だけで話し合う時間を設けた後、集約した意見、要望を確認するようにしているが、要望はあまり聞かれない。家族に利用者の様子を知ってもらい、些細な要望も気軽に出しやすくするため、次回は利用者と家族のバーベキューを開催し、家族の話し合いを予定している。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や職員会、毎日のミーティング等で職員の意見を聞き、行事や業務改善に反映できるように取り組んでいる。	利用者のケアに関する気づきやアイデア、行事、運営に関する意見が出しやすい職場環境にある。職員から出た意見は2名の管理者が集約し、日々のケアや運営に反映できるよう職員に周知している。職員の勤務体制も随時調整している。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表をもとに職員との個別面接を行い、能力に合わせた指導や、自己能力開発につながるよう取り組んでいる。また、研修にも参加できる機会を設け、職員会等で研修報告をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人内で多くの研修を設け、受講できるように取り組み、また、初任者研修や実務者研修、介護福祉士及び介護支援専門員受験対策講座も開いて、資格取得や職員育成に向け取り組んでいる。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個々の能力や性格を見極め、就労する職員それぞれの事情に応じた配置やシフトを考慮している。市が主となって行っているケアマネージャー定例会や認知症勉強会に参加し、情報交換をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人も一緒に見学に来てもらい、不安を軽減できるように努めている。また、入所待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして、信頼関係を構築できるように配慮している。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護不安や状況をよく聞き取って把握し、家族が気軽に相談できるように努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性のあるケースについては、母体法人内外の施設と連絡調整し、入所できるよう迅速に対応をしている。また、市にも相談を受けてもらうよう働きかけている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、人生の大先輩として利用者に敬意を払いつつ、生活をともにする者として共感し、励まし励まされて日々過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族とよく話しをし、コミュニケーションを積極的にとって、利用者が体調不良などで心細いときは連絡して訪問してもらう等、お互いに利用者を支え合う関係が築けている。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人に訪問してもらったり、自宅周辺へドライブや馴染みの店に買い物に出かけたりしている。友人、知人の面会の際には、ゆっくり過ごせるよう配慮している。また、地域の行事にも参加する等、馴染みの人や場との継続的な交流ができるように支援している。</p>	<p>家族と行きつけの店に買い物に出かけたり、毎週自宅に帰って家族と昼食をとる利用者もいる。職員は友人、知人、家族の来訪の際には歓待し、利用者の普段の様子を伝えているほか、ドライブに出た際には自宅周辺に立ち寄りしたりしている。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>できない所はできる人が補い、利用者同士互いに協力し合って生活ができるよう、重度者と軽度者を分けず、一緒に過ごせる環境や場面をつくっている。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>家族から退所後の他施設への入所等の相談を受けたりして、継続的な関係を保っている。亡くなった際には、葬儀に参列している。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者に寄り添い、その人の思いに関心を持って接することで、日々の行動や表情、言葉などから一人ひとりの思いを汲み取り、把握ができるように努めている。</p>	<p>利用者の言葉やジェスチャー、表情から思いを把握している。家族が来訪した際には、家族からも意向の把握に努めている。把握したことは記録して職員間で共有し、ケアに反映するよう努めている。</p>	
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人、家族との会話から情報を得るよう努めている。これまで本人が大切にしてきた関わりを継続できるよう、努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできること、分かる力に注目するようにして、その力が維持できるように努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族との関わりの中で思いや意見を聞き、全職員でカンファレンスを行って、介護計画に反映している。個別ケアチェック表でモニタリング評価を行っている。	日々の業務の中で出された職員の意見をまとめ、計画作成者がアセスメントやモニタリングし、家族の意向や要望を確認して介護計画の作成、更新を行っている。3ヶ月毎の見直しのほか、本人の状況が変化したときは随時見直し、現状に即した介護計画としている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや本人との会話の内容などを個人記録に記載し、日々のケアや、介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体法人の医療連携体制を活かして、本人や家族が安心して生活できるように支援している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会をきっかけに地域との関係も密接になり、地域のボランティア、民生委員、部落長、自主防災組織や市町村などの協力を得ながら、事業所行事や防災訓練も実施できている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や他の医療機関等との連携を密にして、随時受診対応も行っている。	入所時に本人、家族の同意を得て協力医をかかりつけ医としており、月2回の往診を受けている。専門医への受診は原則として家族対応だが、家族対応が困難な場合は職員が対応し、受診結果については個人記録に記載して職員間で共有するほか、家族にも伝えて共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態に関する日常の気づきや変化をメールや電話連絡で看護師と相談し、助言や指導を得ている。必要に応じて医療機関との連携も密にとれている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら、早期の退院支援に結び付けている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における対応は、入所時や本人の状態に変化のある都度説明している。また、職員は研修も受講し、看取りができる体制を整えている。昨年度は医師による母体法人の看取り説明会を行い、家族も参加した。	重度化した場合や終末期の対応について家族と話し合い、意向の確認を行っている。協力医や訪問看護のバックアップ体制が整っており、希望があれば事業所での看取りを行っており、直近の1年間で3名の看取実績がある。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は研修に参加して対応方法を身につけ、事業所内でマニュアルを用いた勉強会、実技訓練を行って、緊急時に対応できる実践力を身につけている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会のメンバーに、併設施設の防災委員長を加え、民生委員、部落長と情報交換を行って、災害時の協力体制が構築できている。また、地元消防署の協力を得て緊急連絡訓練や防災訓練を行い、地域住民参加の防災訓練にも参加している。	連絡訓練、日中、夜間想定避難訓練や福祉避難所開設訓練等、母体法人の福祉ゾーン全体で防災訓練を実施している。市の一斉防災訓練は、地域の自主防災組織と協力して実施している。市及び地域の防災倉庫を敷地内に設置している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	母体法人全体で利用者のプライバシー保護についての取り組みを行い、職員会でプライバシーや尊厳を損ねるような声掛けをしないよう話し合い、徹底を図っている。	排泄誘導時は自尊心を傷つけないよう耳元で小声で声掛けするよう徹底している。個人情報の保護については、入職時に周知徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案したり、簡単に意思表示ができるように工夫するなど、利用者一人ひとりの自己決定を大切にケアを行っている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物や散歩などに個別に対応し、利用者の希望に沿うように支援している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類が不足する場合には家族会前に家族に連絡し、補充をしてもらっている。美容師の資格を持ったボランティアによるカットもしてもらえるよう支援している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣住民や利用者の友人、知人からおすそ分けのあった旬の野菜や、自分たちで育てた野菜を皆で調理し、職員も一緒に食べることで食事を楽しんでいる。	母体法人の管理栄養士のつくった献立を、利用者の要望を入れて一部変更している。「刻み」や「とろみ」等を適宜行って、利用者に合わせて食事形態に対応している。利用者は、下膳や食器洗い等、できることを職員と一緒にしている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー、水分の摂取量をチェックし、摂取量が少ない利用者には、補食や嗜好物で補給している。また、栄養士に相談して、必要に応じた食の支援を行っている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嚥下体操を行い、毎食後の口腔ケアを行っている。必要に応じて、言語聴覚士からケア用品やケアの仕方の指導を受けている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知症高齢者の失禁は問題とは捉えていないが、できる限りトイレで排泄できるようさりげなく誘導し、利用者の自尊心にも配慮したケアに心掛けている。	排泄チェック表で利用者一人ひとりに合った排泄支援をしている。夜間はポータブルトイレを使用している利用者も、日中はトイレを利用している。入所時に厚いパットを使用していた利用者が、半年でほとんど失禁がなくなり、薄いパットを使用する程度に改善した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や生活リハビリテーションなどで体を動かす機会を設けたり、食事や水分にも気をつけ、自然排便ができるように取り組んでいる。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が楽しめるよう朝から浴室を開放し、好きな時間に入れるように支援している。	週3回の入浴を目安に支援しているが、希望があれば毎日でも入浴できる。希望に応じて同性スタッフが介助している。入浴拒否のある利用者は、時間を変える、職員を変える等の工夫をして、5日間以上入浴のない日が続かないようにしている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の日光浴や活動を促し、生活のリズムを整え、活動量を増やしている。どうしても眠れない利用者には、お茶等を提供しながら話を聞き、安心して眠れるように支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成して、職員が副作用などについても理解し、服薬支援ができるように努めている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のできることを把握し、一人ひとりに応じた役割や楽しみが持て、生き甲斐につながるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事への参加やドライブをしたり、個々のニーズに即した外出の支援を行っている。また、遠方への外出は事前に計画し、バスを利用して出かけたりしている。	日ごろの敷地内の散歩のほか、初詣や花見、みかん狩り等に母体法人のバスを利用して出かけている。職員が専門医受診に付き添う際には、少し遠回りをしてドライブを楽しむこともある。年2回、併設の事業所に洋品店が出張販売に来ており、職員が付き添って買い物を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理が難しい利用者が増え、家族が管理している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける利用者には書いてもらい、家族に郵送している。また、電話ができる利用者は、家族様に連絡して、話しができるように支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に家具の配置や飾り等の意見を聞き、自分の家だという意識を持ってもらえるよう配慮している。	平屋でユニットの間は洗濯物干し場になっており、利用者が洗濯物をたたむテーブルも置かれ、生活感のある場所になっている。掃除の行き届いたゆったりしたスペースの食堂は、対面キッチンから見守りがしやすく、先に食事を終えた利用者はテレビの前のソファに移動して、くつろいでいる。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や庭に椅子を置き、仲の良い利用者同士で過ごせるようスペースを作っている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て家具や寝具類、写真等を持ってきてもらい、本人の好みに応じて居室に飾って、居心地のよさに配慮している。	好きな洋服をかけたハンガーラックや、壁に写真を飾ったり、趣味の物をベットサイドに置いたり、一人ひとりが居心地良く過ごせる工夫がされている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保をしながら、利用者が自立した生活が送れるように環境を整えている。		

ユニット名:

あい

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: ゆう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時や、異動してきた職員にも理念を説明し、理解を得たうえで、理念を書面にして渡している。職員会では理念について話し合い、振り返りを行って、ケアに活かせるよう取り組みを続けている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前からあった母体法人福祉ゾーンに併設してできた事業所ということもあり、地域には定着している。地域行事や清掃活動に参加し、ボランティアの受け入れや防災訓練などを通じて、積極的に交流が図られている。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は、面会時に来客や家族に認知症ケアでの見本となるような言葉掛けや対応を行うことで、身近な所から認知症への理解を浸透させられるように努めている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通じて利用者や家族に要望や苦情がないか問いかけ、話し合っている。また、地域の部落長、民生委員、地域の住民代表、家族代表を参加者として、防災、福祉避難所についての地域との連携や、行事参加について話し合っている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が行っている介護保険サービス事業所の交流会や運営推進会を通して密な連携が図れるようになり、小さなことでも気軽に相談できる関係が築けており、すぐに電話で確認を取るなどして、サービスの向上につなげている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体法人全体で取り組んでおり、研修を実施したり、職員会等で話し合っって身体拘束をしない、利用者の尊厳を支えるケアの提供に取り組んでいる。日中は玄関の施錠はせず、利用者の自由な暮らしができるよう、見守りを中心に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体法人全体で取り組んでおり、研修を実施したり、職員会等で事例を話し合ったりして、虐待のない、利用者の尊厳を支えるケアが提供できるように取り組んでいる。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体法人全体で取り組んでおり、家族にも制度説明をして、情報提供をしている。また、利用者に対象者がいないか検討したり、活用ができるよう、職員の知識向上に努めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には十分な時間を取り、契約書に沿った説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年4回家族会を開催し、苦情や要望がないか確認し、また、家族だけで話し合う場も設けている。利用者、家族から相談があった際には、できるだけより良い改善が行えるよう適宜対応している。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や職員会、毎日のミーティング等で職員の意見を聞き、行事や業務改善に反映できるように取り組んでいる。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表をもとに職員との個別面接を行い、能力に合わせた指導や、自己能力開発につながるよう取り組んでいる。また、研修にも参加できる機会を設け、職員会等で研修報告をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人内で多くの研修を設け、受講できるように取り組み、また、初任者研修や実務者研修、介護福祉士及び介護支援専門員受験対策講座も開いて、資格取得や職員育成に向け取り組んでいる。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個々の能力や性格を見極め、就労する職員それぞれの事情に応じた配置やシフトを考慮している。市が主となって行っているケアマネージャー定例会や認知症勉強会に参加し、情報交換をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人も一緒に見学に来てもらい、不安を軽減できるように努めている。また、入所待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして、信頼関係を構築できるように配慮している。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護不安や状況をよく聞き取って把握し、家族が気軽に相談できるように努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性のあるケースについては、母体法人内外の施設と連絡調整し、入所できるよう迅速に対応をしている。また、市にも相談を受けてもらうよう働きかけている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、人生の大先輩として利用者に敬意を払いつつ、生活をともにする者として共感し、励まし励まされて日々過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族とよく話しをし、コミュニケーションを積極的にとり、利用者が体調不良などで心細いときは連絡して訪問してもらう等、お互いに利用者を支え合う関係が築けている。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人に訪問してもらったり、自宅周辺へドライブや馴染みの店に買い物に出かけたりしている。友人、知人の面会の際には、ゆっくり過ごせるよう配慮している。また、地域の行事にも参加する等、馴染みの人や場との継続的な交流ができるように支援している。</p>		
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>できない所はできる人が補い、利用者同士互いに協力し合って生活ができるよう、重度者と軽度者を分けず、一緒に過ごせる環境や場面をつくっている。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>家族から退所後の他施設への入所等の相談を受けたりして、継続的な関係を保っている。亡くなった際には、葬儀に参列している。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者に寄り添い、その人の思いに関心を持って接することで、日々の行動や表情、言葉などから一人ひとりの思いを汲み取り、把握ができるように努めている。</p>		
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人、家族との会話から情報を得るように努めている。これまで本人が大切にしてきた関わりを継続できるよう、努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできること、分かる力に注目するようにして、その力が維持できるように努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族との関わりの中で思いや意見を聞き、全職員でカンファレンスを行って、介護計画に反映している。個別ケアチェック表でモニタリング評価を行っている。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや本人との会話の内容などを個人記録に記載し、日々のケアや、介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体法人の医療連携体制を活かして、本人や家族が安心して生活できるように支援している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会をきっかけに地域との関係も密接になり、地域のボランティア、民生委員、部落長、自主防災組織や市町村などの協力を得ながら、事業所行事や防災訓練も実施できている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や他の医療機関等との連携を密にして、随時受診対応も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態に関する日常の気づきや変化をメールや電話連絡で看護師と相談し、助言や指導を得ている。必要に応じて医療機関との連携も密にとれている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら、早期の退院支援に結び付けている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における対応は、入所時や本人の状態に変化のある都度説明している。また、職員は研修も受講し、看取りができる体制を整えている。昨年度は医師による母体法人の看取り説明会を行い、家族も参加した。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は研修に参加して対応方法を身につけ、事業所内でマニュアルを用いた勉強会、実技訓練を行って、緊急時に対応できる実践力を身につけている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会のメンバーに、併設施設の防災委員長を加え、民生委員、部落長と情報交換を行って、災害時の協力体制が構築できている。また、地元消防署の協力を得て緊急連絡訓練や防災訓練を行い、地域住民参加の防災訓練にも参加している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	母体法人全体で利用者のプライバシー保護についての取り組みを行い、職員会でプライバシーや尊厳を損ねるような声掛けをしないよう話し合い、徹底を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案したり、簡単に意思表示ができるように工夫するなど、利用者一人ひとりの自己決定を大切にされたケアを行っている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物や散歩などに個別に対応し、利用者の希望に沿うように支援している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類が不足する場合には家族会前に家族に連絡し、補充をしてもらっている。美容師の資格を持ったボランティアによるカットもしてもらえるよう支援している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣住民や利用者の友人、知人からおすそ分けのあった旬の野菜や、自分たちで育てた野菜を皆で調理し、職員も一緒に食べることで食事を楽しんでいる。		
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー、水分の摂取量をチェックし、摂取量が少ない利用者には、補食や嗜好物で補給している。また、栄養士に相談して、必要に応じた食の支援を行っている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嚥下体操を行い、毎食後の口腔ケアを行っている。必要に応じて、言語聴覚士からケア用品やケアの仕方の指導を受けている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知症高齢者の失禁は問題とは捉えていないが、できる限りトイレで排泄できるようさりげなく誘導し、利用者の自尊心にも配慮したケアに心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や生活リハビリテーションなどで体を動かす機会を設けたり、食事や水分にも気をつけ、自然排便ができるように取り組んでいる。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が楽しめるよう朝から浴室を開放し、好きな時間に入れるように支援している。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の日光浴や活動を促し、生活のリズムを整え、活動量を増やしている。どうしても眠れない利用者には、お茶等を提供しながら話を聞き、安心して眠れるように支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成して、職員が副作用などについても理解し、服薬支援ができるように努めている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のできることを把握し、一人ひとりに応じた役割や楽しみが持て、生き甲斐につながるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事への参加やドライブをしたり、個々のニーズに即した外出の支援を行っている。また、遠方への外出は事前に計画し、バスを利用して出かけたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理が難しい利用者が増え、家族が管理している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける利用者には書いてもらい、家族に郵送している。また、電話ができる利用者は、家族様に連絡して、話しができるように支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に家具の配置や飾り等の意見を聞き、自分の家だという意識を持ってもらえるよう配慮している。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や庭に椅子を置き、仲の良い利用者同士で過ごせるようスペースを作っている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て家具や寝具類、写真等を持ってきてもらい、本人の好みに応じて居室に飾って、居心地のよさに配慮している。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保をしながら、利用者が自立した生活が送れるように環境を整えている。		

ユニット名:

ゆう

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				